

学校関係者評価委員会として、以下の通り評価、ご報告いたします。

経営方針を達成するための重点目標と具体策として、

- 1 学習面で できてうれしい場面を創り支える【認知能力の育成】
 - (1) 個別最適化の推進（指導の個別化>学習の個性化・自由進度）
 - (2) PISA 型読解力の丁寧な育成
 - 2 自信をもち、支え伸ばし合う心の醸成【積極的な生活指導の充実、そして非認知能力の涵養(かんよう)】
 - 3 支援を必要とする生徒についての知識と指導力の向上と不登校対応の充実
 - 4 本校の大きな強み 地域力の活用
 - 5 1～3を充実させるための校内研修の充実
- の5つを掲げています。

<生徒アンケートより>

ほとんどの項目において肯定的回答（「とても思う」「思う」）が80%を超えており、全体として良好な結果が見られました。特に、学習指導についての項目では肯定的回答が90%を超え、一人一人の生徒を伸ばす指導をすることにより、主体的に学んでいると感じている生徒が多いことがうかがえます。

一方で、否定的回答（「あまり思わない」「思わない」）の割合が比較的高かった項目は、「わたしは、富士中生の一員として地域のボランティア活動等にかかわりたいと思う。」「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している。」「学ぶことが楽しい。」「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」「先生たちは、生徒が相談しやすい。」です。これらは「わからない」と回答した割合が比較的高かった項目ともほぼ一致しており、生徒の実感や認識の差が示唆されます。

富士中には、地域から年間10件以上のボランティア活動（清掃活動、納涼祭り・子ども祭り、花火大会、さくら花見堂まつり、避難所運営訓練、野外子ども会、池尻・三宿クリーンDAY、古着回収、オール代沢まつり、池之上餅つき大会など）の募集が寄せられています。教員が積極的に参加したこともあり、今年度は避難所運営訓練への参加が増加しました。ボランティア活動は、生徒が地域や社会の一員として自らの役割を考える貴重な機会となることから、より多くの生徒が主体的に参加できるよう、参加意欲を高める働きかけや効果的な周知方法について、引き続き検討・工夫していく必要があると思われまます。

また、こうした学力のみでは測ることのできない協働的な学びの充実は、重点目標2「積極的な生活指導の充実および非認知能力の涵養」にも資するものと考えられます。

今年度は、11月に全校生徒を対象とした「夢のプロジェクト（笑顔と学びの体験授業）～桂三四郎の上方落語会+落語入門～」を実施したほか、1年生対象に、日本体育大学教授野井真吾氏による講演「元気大作戦」を実施、3年生を対象とした高校の先生の話聞く会、2年生では職場体験を通して自己の将来について考える機会を設けています。職場体験においては、事前のビジネスマナー講座に加え、終了後の「お礼の手紙」や「体験新聞」の作成など、学びを深化させる取組が行われています。PISA型読解力の向上を目標とした取組のさらなる充実を期待しています。

<保護者アンケートより>

ご家庭での様子から把握しやすい項目については肯定的回答が多く見られた一方で、学校での様子、特に授業内容に関する項目については、「わからない」とする回答の割合が高くなる傾向が見られます。例年、キャリア教育に関する項目については、否定的回答および「わからない」とする回答が比較的多い傾向です。

「本校は、ホームページやメールなどで保護者に情報を提供している。」の項目は、昨年度より数値が上昇し、

80%近くに達しました。一定の成果が認められる一方で、学校の教育活動、とりわけ授業内容やキャリア教育に関する理解をより一層促進するため、これらの媒体を効果的に活用するなど、周知方法のさらなる工夫が必要であると考えられます。

また、「本校は、子どもや保護者が相談しやすい。」と生徒アンケートの「先生たちは、生徒が相談しやすい。」の肯定的回答が少しだけ増えました。引き続き、子どもや保護者が安心して相談できる体制の充実を図りながら、学校全体で相談しやすい環境作りを目指してください。

<地域アンケートより>

昨年度と比べると、「わからない」とする回答が少なくなっています。学校だよりやホームページ等を通じた情報発信により、学校の様子に対する地域の理解が進んでいることがうかがえます。実際に、富士中だより No.9 において、「なぜ『富士』中学校なのか」という問いかけに対し、地域の方から丁寧な回答が寄せられたことが紹介されており、学校と地域との良好な関係性が築かれている様子が見受けられます。今後も地域に開かれた学校づくりを推進し、地域の教育力を積極的に活用していくことを期待しています。

<その他の今年度の取組について>

全学年対象に、放課後学習教室とキャリア・アップ講座（英検、数検の対策講座）／3年生対象に、チャレンジ教室（発展的な学習教室）やオンライン土曜講習会／教員研修として、4月生徒理解の研修、エビペンを使用したアレルギー対応研修、7月特別支援教育研修、構成的グループエンカウンター研修、8月救命救急研修（AED 使用）を実施

<総合所見>

学校関係者評価委員会としては、まず先生方の日常の努力に感謝いたします。

- (1) 今年度の保護者アンケートの回収率は、前年度より改善はされましたが、依然として低い結果です。情報提供方法を見直すこと、教職員やPTAの協力を仰ぐこと等で回収率を高くする尚一層の努力が必要です。より相談しやすい学校を目指し、保護者と連携を密に生徒の安全や健康に対する意識を高めていただきたいと思えます。
- (2) 学校の重点目標に関する生徒アンケート結果から、先生の指導方法に対する信頼度は高いと読み取れます。一方で、「キャリア教育」「ボランティア活動」についての設問は、生徒、保護者共に否定的回答や「わからない」が多くなりました。教育活動の内容やねらいについて、情報共有する工夫が必要だと思えます。
- (3) 「富士中だより」は情報を伝えるツールとして機能していると感じます。「先輩通信」では進路に役立つ貴重な情報を提供しています。「学び舎通信」では学校の様々な取組を紹介しています。また、「教育相談・スクールカウンセラーより」では個々の生徒へのアプローチを試みています。是非、今回のアンケート結果で「わからない」が多かった設問（キャリア教育や授業内容、学校での過ごし方など）について取り上げて、相互理解を深めることが大事だと思えます。
- (4) 地域アンケート「富士中生は気持ちよい挨拶ができています。」が100%になりました。今後も地域との連携を大切にしながら、地域に愛され信頼される学校づくりを目指してください。
- (5) 学校を取り巻くいろいろな環境が、年々、整備かつ改善されていることを評価いたします（折りたたみ式ヘルメットの各教室への導入／来年度の体育館空調整備／正門電子錠の導入／全教室のLED化／教室収納棚の仕切り取り付け）。なお、継続する課題については、引き続き検討をお願いします。

学校関係者評価委員会：森奈弓 三島祥子 樋口暁子 池田孝子 荒川かおり